

平成20年度第2次新まちづくり計画事業進行調書(その1)

計画体系コード	4-2-1	事業名	北海道の野生動物復元事業				
担当	環境局円山動物園経営管理課 森山 621-1426						
全体計画							
事業内容	希少動物でもあるオオワシやシマフクロウを繁殖し、鷹匠技術を活用して園内で飛行訓練を行い自然界へ放鳥させるまでの一連のプロジェクトをその過程から展示する。			<年度別の事業内容>			
				H19	園内ビオトープの実態調査、今後のビオトープ整備計画を検討する協議会の開催、保護した猛禽類の個体の収容小屋の設置、オオワシ放鳥計画の概要の作成		
				H20	オオワシ野生復帰会議開催 猛禽類の繁殖小屋、リハビリケージ、トレーニングケージの建設 ビオトープエリアの造成、環境整備		
				H21	オオワシ・シマフクロウの繁殖、飛行訓練の実施 産学官、市民参加によるビオトープ運営		
			H22	オオワシ・シマフクロウ繁殖・放鳥			
事業内容・量・場所・規模・件数等	平成19年度事業内容(決算)			平成20年度事業内容(予算)			
	<p>野生動物復元事業(6,382千円)</p> <ul style="list-style-type: none"> 現在飼育する猛禽類の保護小屋 2棟(W3600mmD1800mmH2300mm)ボイラー機械室横に設置 オオワシ放鳥基本計画策定のための調査業務委託の実施1件 事業関係機関への視察等調査(サハリン) 1回 			<p>野生動物復元事業(2,825千円)</p> <ul style="list-style-type: none"> オオワシ野生復帰会議開催 ロシア(サハリン)政府関係者、研究者、環境省等の支援協力を受けた繁殖及び放鳥計画の策定のため協議を行う。 <p>野生復帰ゾーン整備(場所:園内旧シカ・トナカイ舎横)</p> <ul style="list-style-type: none"> オオワシ・シマフクロウの繁殖、放鳥のための施設建設 繁殖小屋(4棟)建設 リハビリケージ(保護小屋、大小1棟)建設 トレーニングケージ(金網の大型鳥かご)1棟建設 <p>自然体験ゾーン整備(場所:園内こども動物園と円山川の間のエリア)</p> <ul style="list-style-type: none"> 園内ビオトープエリアの造成工事 ビオトープセンターの建設 			
達成目標の状況							
項目		18年度末 (現状)	19年度末 (実績)	20年度末 (予定)	21年度末 (予定)	22年度末 (予定)	22年度末 (目標)
オオワシ、シマフクロウの繁殖数		-	-	-	-	3羽	3羽
オオワシ、シマフクロウの放鳥数		-	-	-	-	3羽	3羽
市民・企業等との協働の状況(市民・企業等の参加、支援、協力の状況)							
<p>市民との連携、市民参加 ビオトープ整備に際しては、市民及び有識者から成るビオトープ協議会を設置し、協働して調査、計画検討を実施した。(会議開催6回、参加者公募による観察会等2回)</p> <p>企業等との連携・協働 [資金協力] 事業の社会的貢献性の説明などを通し企業の賛同を得て、H20年度建設する繁殖小屋1棟の経費を負担してもらうことで協議中 [人材協力] - [情報協力] - [その他の協力] -</p> <p>市民・企業等が参加しやすい環境づくり</p>							

平成20年度第2次新まちづくり計画事業進行調書(その2) (単位:千円)

計画体系コード		4-2-1		事業名	北海道の野生動物復元事業			
評価(成果)				課題				
<p>H19年度 野生動物復元事業に付随する傷病鳥獣などの受入準備のため、猛禽類の保護小屋の設置を行った。これにより、収容場所の拡大によりオオワシ・シマフクロウを始めとする猛禽類の保護が可能となり、オオワシプログラムの一部準備が整った。 また、H20年度からの園内ピオトープ整備にあたり、実態調査を市民参加も含めながら実施した。</p> <p>H20年度 4月 野生復帰ゾーン整備及びピオトープ整備ともに実施設計着手 5月 オオワシ野生復帰会議の招聘業務等の委託を行い、6月22日の会議開催に向け準備中</p> <p>予定どおり設計に着手し、施設完成に向け進行している。</p>				<p>今後の繁殖・放鳥事業に必要な施設建設等予算の財源として一般財源の確保が困難な場合は、企業等との協働事業として行うなどの予算計画が必要である。</p>				
今後の事業の予定・方向								
<p>繁殖小屋の増設が予定される。 また、野生復元事業のうち、園内ピオトープを活用した事業は市民・団体参加を促進し、低廉な事業コスト又は無コストでの運営を進めていく。</p>								
事業費の推移								
項目		19年度	20年度	21年度	22年度	計		
計画	事業費	40,215	575,465	55,320	0	671,000		
	財源							
	国・道支出金	0	0	0	0	0		
	市内債	0	378,000	0	0	378,000		
	その他	0	0	0	0	0		
内訳	一般財源	40,215	197,465	55,320	0	293,000		
予算	事業費	15,000	299,825	-	-	314,825		
	財源							
	国・道支出金	0	0			0		
	市内債	0	207,000			207,000		
	その他	0	0			0		
内訳	一般財源	15,000	92,825			107,825		
実績	事業費	6,382	-	-	-	6,382		
	財源							
	国・道支出金	0				0		
	市内債	0				0		
	その他	0				0		
内訳	一般財源	6,382				6,382		
事業費の進捗率		(19年度実績事業費 + 20年度予算事業費) / (計画事業費)					45.6%	
計画との差異(予算・事業内容・規模・時期等)								
(全体)								
[19年度]								
<p>ピオトープの整備による自然環境プログラムの調査研究費や野生復元プロジェクトにスポットを当てた夏休み特別展示イベント、またピオトープの造成について予算計上していたが、造成についてはピオトープ協議会や市民参加による観察会を通して寄せられた意見・提案により造成費の見直しが必要となり、平成20年度予算内での執行へと変更し未執行となったため、約8,600千円の不用額が生じた。なお、この不用額は動物園の経常経費における燃料費高騰による支出超過に充てられた。</p>								
[20年度]								
<p>本市財政状況を踏まえた事業計画の見直しを行い、当初計画した施設の機能・時期を大きく変更しない範囲での事業予算計上となった。</p>								